

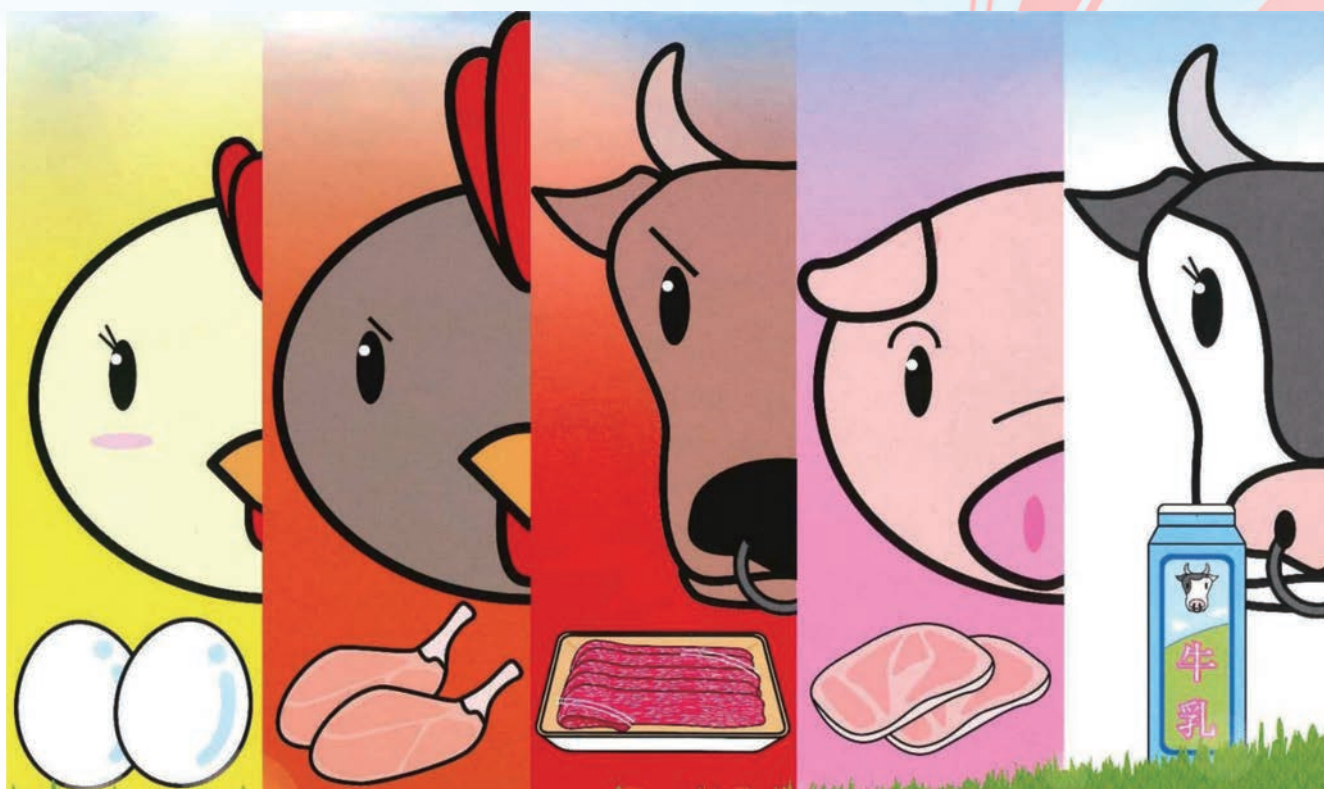
# にいがた 畜産協会たより

公益社団法人  
新潟県畜産協会

新潟市西区山田字堤付2310-15  
全農にいがた第2ビル内  
TEL. 025-234-6781  
~6783



## 平成31年度の事業計画と予算の概要



### 目次

- ◆平成31年度の事業計画と予算の概要
  - 事業計画骨子……………(2)
  - 予算の概要……………(3)
- ◆今年度の事務局体制と年度初めの主な会議  
……………(4)
- ◆「畜産安心ブランド」認証式&研修会 ……(5)
- ◆「にいがた畜産女子会」今年度もがんばります！  
……………(6)
- ◆声のコーナー ……(7)
  - 「就農してみた」  
肉用牛経営：佐渡市 渡部あずさ
  - 「第三者継承で酪農への夢をかなえる！」  
酪農経営：新潟市 森口 巖
- ◆畜産安心ブランド生産農場だより ……(8)
  - 佐渡市：金子 知樹
- ◆ちくさん女子の窓 ……(8)
- ◆編集後記 ……(8)

協会のホームページ

<http://niigata-chikusan.jp/>

(スマートフォンからも見やすくなりました)



# 平成31年度の事業計画と予算の概要

平成31年3月19日開催の平成30年度第4回理事会において、平成31年度事業計画及び収支予算が決定されました。

当協会は、今年度当該事業計画に基づき農林水産省及び（独）農畜産業振興機構が実施する事業実施主体の公募に参加し、国、県及び中央団体の指導のもと、会員、関係機関及び関係団体と連携して、経営安定対策、生産性向上対策や家畜衛生対策など公益性の高い事業に取り組み、畜産経営体への諸支援に努めます。また、引き続き事務局体制の健全な運営をめざして諸課題に取り組みます。

## ○ 事業計画骨子

### 1 公益目的事業

畜産物の価格変動による損失を補填する事業、畜産業を営む者の経営の指導、家畜の飼養管理及び保健衛生に関する技術指導等を通じて畜産の振興に寄与する事業

#### (1) 畜産物の価格変動により生ずる畜産経営体の損失を補填する事業

「肉用子牛生産者補給金制度」及び平成30年12月に開始された「肉用牛肥育経営安定交付金制度」（法制化牛マルキン制度）の両法律事業を適切に実施します。

#### (2) 畜産経営体に対する経営及び技術の改善指導、高能力家畜、器具・器材等の導入に対して助成を行う事業

ア 次世代に継承できる収益性の高い魅力的な畜産経営を確立するため、畜産経営体質強化推進事業を中心とした各種の経営改善指導や「にいがた畜産女子会」の活動支援を実施します。

イ 畜産経営基盤を強化するため、「新潟県畜産振興クラスター協議会」事務局として畜産クラスター事業等を活用した生産性向上に係る機械導入支援や肉用牛繁殖基盤強化を目的とした肉用牛経営安定対策補完事業を実施します。



にいがた畜産女子会  
ビジネスマナー研修



畜産クラスター事業で  
導入の搾乳ユニット

#### (3) 家畜防疫を徹底するための指導及び経費に対して助成を行う事業

ア 家畜疾病の清浄化や飼養衛生管理の強化に向けた取り組みを支援するため、牛疾病検査円滑化推進対策事業及び家畜生産農場清浄化支援対策事業に関連する衛生対策事業を実施します。

イ 新潟県内で産業動物獣医師又は新潟県畜産獣医師（県職員）として就業を希望する獣医学生に対し、修学資金を卒業まで貸与する事業を昨年度に引き続き実施します。



防疫演習における薬剤の作成と使用法・入念な車両消毒



#### (4) 衛生管理基準を充足した畜産経営体を認定する事業

食の安全・安心を求める消費者ニーズに対応して、HACCPの考え方に基づく衛生管理手法を取り入れた「畜産安心ブランド生産農場」の認定を推進します。



## 2 その他事業

畜産の振興を支援する事業

### (1) 県産和牛のブランド化を推進する「にいがた和牛推進協議会」事務局を運営する事業

「にいがた和牛」の流通・販売対策等を積極的に展開し、一層のブランド力強化に向けた取り組みを実施します。



ロゴマーク



新潟ふるさと村での販売促進

### (2) 畜産物の消費拡大を図る事業

幅広い県民層を対象とした交流会の開催等、畜産物の安全性についての知識向上、畜産業に対する理解促進に努めます。



県産畜産物を使った親子料理教室



イベントに参加し畜産をPR

### (3) 緊急事態発生時に畜産経営体、団体に助成金を交付する事業

伝染病の発生又は災害発生時に畜産経営体等に対する緊急対策を実施します。

## ○ 予算の概要

### 計画事業費

(単位：千円)

区分	事業等名称	計画事業費額	備考
畜産物の価格変動により生ずる畜産経営体の損失を補填する事業	・肉用子牛生産者補給金制度 ・肉用牛肥育経営安定交付金制度 ・上記2事業等の事業推進費	18,550 110,136 20,973	・肉用子牛補給金交付 ・肉用牛交付金交付
畜産経営体に対する経営及び技術の改善指導、高能力家畜、器具・器材等の導入に対して助成を行う事業	・肉用牛経営安定対策補完事業 ・畜産経営診断に関する事業 ・畜産クラスター等推進業務 ・優秀畜産表彰事業 ・にいがた畜産女子会活動支援 ・畜産活性化推進事業	11,378 9,840 1,172 854 1,389 371	・増頭奨励、離島対策 ・畜産コンサル ・地域の共進会等支援
家畜防疫を徹底するための指導及び経費に対して助成を行う事業	・養豚農場PRRS撲滅対策支援事業 ・家畜生産農場清浄化支援事業 ・牛疾病検査円滑化推進対策事業 ・地域自衛防疫取組促進対策事業 ・農場HACCP認証支援地域強化促進事業 ・地域豚疾病緊急対策推進事業 ・獣医師養成確保修学資金貸与事業	5,600 1,460 3,580 6,810 1,400 5,320 8,990	・3カ年事業の最終年 ・検査対象月齢引下げ ・牛白血病モデル農場2戸増 ・3カ年事業の最終年 ・2名新たに募集
衛生管理基準を充足した畜産経営体を認定する事業	・畜産安心ブランド生産農場認定事業	1,000	
畜産物の消費拡大を図る事業	・畜産理解増進事業	1,232	・親子料理教室と 県民公開講座を予定
	・その他9件の補助事業等	5,087	
合計		215,142	

# 今年度の事務局体制と年度初めの主な会議

## ○ 人員配置

課	職名	氏名	備考
事務局	局長	中林 大	嘱託 獣医師
総務課	課長	鈴木 哲也	嘱託
	係長	鈴木 奈美子	
	主事	青木 貴寛	
業務課	課長	佐藤 栄治	嘱託
	課長補佐	谷川 昌行	
	技師	佐藤 紫織	
	技師	真保 春紀	
	事務補助員	関 朋子	
	事務補助員	岡田 久美子	

- ・業務課と衛生指導課が統合し、「業務課」となりました。
- ・鍋谷政広非常勤嘱託は退職いたしました。

## ○ 各課の所管業務

課	主な担当業務
総務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庶務及び経理に関する事務</li> <li>・肉用子牛生産者補給金制度</li> <li>・肉用牛肥育経営安定交付金制度</li> </ul>
業務課	<p><b>【経営支援関係】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肉用牛経営安定対策補完事業</li> <li>・畜産経営診断に関する事業</li> <li>・畜産クラスター等推進業務</li> <li>・優秀畜産表彰事業</li> <li>・畜産活性化推進事業</li> <li>・畜産理解増進事業</li> </ul>
	<p><b>【衛生指導関係】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養豚農場PRRS撲滅対策支援事業</li> <li>・家畜生産農場清浄化支援事業</li> <li>・牛疾病検査円滑化推進対策事業</li> <li>・地域自衛防疫取組促進対策事業</li> <li>・農場HACCP認証支援地域強化促進事業</li> <li>・地域豚疾病緊急対策推進事業</li> <li>・獣医師養成確保修学資金貸与事業</li> <li>・畜産安心ブランド生産農場認定事業</li> </ul>
	<p><b>【その他事務局運営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・にいがた和牛推進協議会</li> <li>・にいがた畜産女子会</li> <li>・新潟県畜産振興クラスター協議会</li> </ul>

区分	日時及び場所	参集
平成30年度 事業報告・決算 監査	5月8日(水)13:30 [JA全農にいがたビル]	・監事
肉豚経営安定 交付金制度説 明会	5月13日(月)13:30 [JA全農にいがたビル]	・関係団体の 担当者 ・生産者
事業推進会議	5月17日(金)13:30 [JA全農にいがたビル]	・関係機関 ・関係団体の 担当者
第1回理事会	5月20日(月)13:30 [JA全農にいがたビル]	・役員 (理事・監事)
定時総会	6月19日(水)13:30 [JA全農にいがたビル]	・会員

- ・開催日時等変更の場合があります。
- ・その都度、開催案内等でお知らせします。

## 【今年度の主な行事】

	イベント名等
10月	「県民公開講座」 昨年は休講しましたが、リクエストにつき、復活いたします！！
12月	「親子料理教室」 昨年大好評だった料理教室。 今年も開催を予定します。
その他	「にいがた畜産女子会」活動 詳細は6ページ、 『「にいがた畜産女子会」は 今年度もがんばります！』 をご覧ください。

- ・その都度、開催案内等（文書、ホームページ等）でお知らせします。



県民公開講座の様子

# 畜産安心ブランド生産農場認証式・研修会開催

## 新たな認定農場に 新発田農業高校が仲間入り

2月20日、全農新潟県本部ビルにおいて、平成30年度畜産安心ブランド生産農場認証式・研修会を開催しました。

認証式では、畜産安心ブランド認定委員会の楠原征治委員長から、認定申請のあった乳用牛1、養豚1、採卵鶏1、肉用鶏2の計5農場について、全ての農場が認定の基準に適合して認定を決定したこと及びこれらの農場では衛生的な飼養管理・家畜排泄物の適切な処理に努めているとの審査講評がありました。

阿部専務理事から各農場代表者に認定証が手渡された後、認定農場の代表として木下保さん（乳用牛経営）が「今後一層、安全・安心な畜産物の提供に努める」旨の決意表明を行いました。

今回の認定で、下表のとおり認定率が増加し、県内農場数の51%を占めています。

認定農場数と認定率 (平成31年2月20日現在)

畜種	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏	合計
農場数	80	69	55	23	17	244
(%)	(40)	(61)	(50)	(70)	(85)	(51)



認定された (株)ニイプロ様 (左2名)  
木下 保様 (中央)  
新発田農業高校様 (右2名)

## JGAP【家畜・畜産物】を学ぶ ～生産者研修会～

認証式に引き続いて開催された研修会では、「農場HACCPとJGAP【家畜・畜産物】認証について－持続可能な畜産のためのJGAP認証－」をテーマとして、一般財団法人日本GAP協会の朝日光久先生から講演していただきました。

JGAP認定基準構築に関わる第一人者の同氏から農場HACCPとJGAPの違い、JGAPの成り立ち、意義、そして認証方法についてご紹介いただきました。

当日は認定農場、認定委員会委員、関係機関・団体等合わせて83名の出席となり、畜産物の安心・安全への関心の高さの窺える、活発な研修会となりました。

講演後のアンケートではほぼ全員が「わかりやすかった」としており、JGAPの認識がさらに深まりました。



朝日先生



新発田農業高校様はクリーンエッグ1農場、  
クリーンポーク1農場の2農場の認定となりました

# 「にいがた畜産女子会」 今年度もがんばります！



女子会を立ち上げ早2年。

昨年度は、ものづくり体験、協同組合まつり参加、東京食肉センター研修、ビジネスマナー講習や口蹄疫などを想定した防疫演習など様々な活動に挑戦しました。

1月にそれらの活動を振り返りながら、今年度の活動と新役員の選出について打合せを持ち、2年目に入った今年度も引き続きいろいろなことに取り組むことを話し合いました。

## ○ 役員について（任期1年）

会長に津村智美さん（新発田市、肉用牛）、副会長に坂井美幸さん（新潟市江南区、酪農）が選出されました。よろしくお願いします。

前会長の緒形ゆかりさん（胎内市、酪農）、前副会長の齋藤朱美さん（新発田市、酪農）、女子会立ち上げ後の初代の任務、ありがとうございました。

## ○ 今年度の活動内容について

会員からたくさんの提案があり、次の活動を計画中です。

- ☆ 県内他グループとの交流
- ☆ 畜産物を用いた手作り講習会
- ☆ 県外交流と視察
- ☆ 「ちくさんフェスタ2019」に参加
- ☆ パソコン教室
- ☆ ビジネスマナー講習会

（ビジネスマナー講習会は前年度も開催しましたが、今年度はワンランクアップの内容で計画します。）



【昨年度の活動写真】

## ○ 新役員あいさつ



会長 津村 智美

この度会長に就任しました津村智美です。  
今年度もにいがた畜産女子会は、明るく楽しく元気に、会員の皆さんと有意義な活動をして参りたいと思います。  
よろしくお願いいたします。



副会長 坂井 美幸

この度副会長に就任しました坂井美幸です。  
みなさんと女子会を盛り上げて行きたいと思います。  
よろしくお願いいたします。

## ○ 畜産協会のホームページに女子会のコーナーを作ります！！

女子会の活動や会員のプロフィール、トピックスなど、折々の情報を載せますので、「女子会ってどんな会??」と興味を持っている方！ぜひご覧ください。  
女子会コーナー（HP）開設予定は平成31年5月中旬です。お楽しみに！

今年度も女子会ならではの活動、頑張ります！

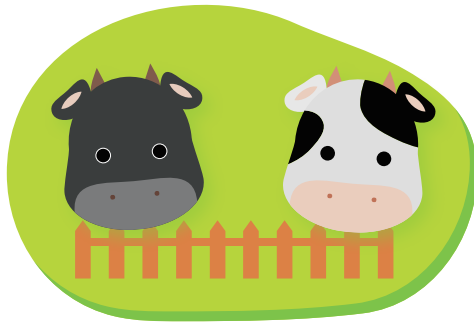


にいがた畜産女子会事務局 電話番号 025-234-6782 担当：佐藤紫織、鈴木奈美子



肉用牛経営

佐渡市石田  
渡部あずさ



酪農経営

新潟市秋葉区東金沢  
森口 巖



## 『就農してみて』

私にとって、昔から父方が畜産・酪農の両方を、母方の家でも畜産をしていた事もあり、幼少期から牛はとても身近な存在でした。

私は三人姉妹の末っ子でしたが、姉二人が畜産を継ぐ意思がなかった事もあり、私が高校卒業後、七日程会社勤めをしてから、2017年11月から父の元で畜産を習いながら就農しました。

私は父の様に農業系の学校には通ってはいない為、知識など一切ない状態で始めたので、牛の体調の善し悪しが分からず、また、最初の頃は早朝からの仕事やエサの給与量、牛の名前をなかなか覚えられないなど、大変なことも多くありましたが、今では仕事を覚え、子牛と成牛のエサやりを中心に任されています。牛ごとに加減が必要な濃厚飼料の量も、その時その時で父と相談して、牛の体調が悪ければ薬を混ぜて食べさせたり、オーツヘイの量を調整するなどして、牛の様子を見ながら与えています。

将来的な夢と目標は、父と相談中ですが、父が肥育を担当し、私と母が繁殖を担当して、牛の頭数を増やしていくことです。

最後になりますが、就農してみても思ったのは、畜産農家は案外休みを取れるということです。就農する前は、畜産農家は休みを取りにくいのかなと思っていましたが、父から、牛の出産や子牛市場がない時期であれば、母と私とで日にちを調整して休んでよいと言われています。

農家だと忙しくて休みがなかなか取れないイメージがあるので、そのイメージが無くなって、若い世代の人が就農してくればなと思います。



## 『第三者継承で酪農への夢をかなえる!』

酪農経営における後継者不足の解消につながればとの思いで非農家出身の自分が夫婦で酪農経営に参入した経過を紹介させていただきます。

三条市のサラリーマン家庭で育った自分が酪農と係わったのは酪農学園大学への入学でした。しかし、自分には酪農は合わないとの思いが膨らみ2年次の秋に中退、でも結局は新潟市内の酪農経営に縁あって就職しました。就職後に結婚し子供が生まれると仕事を終えて帰るのが夜10時すぎという生活がいやになり3年間で退職、その後はサラリーマン生活を5年間続けました。

しかし、住宅の新築を計画したものの会社の給料では難しいため退職し、再度、阿賀野市の酪農経営に1年間勤務する間に自分で酪農をやりたいとの思いがどんどん強くなりました。

酪農経営に新規参入するに当たり第三者継承の道を探っていましたが、JAの紹介により秋葉区の酪農家の田村豊さんとの経営移譲の話がまとまりました。

その後も2か所の酪農経営で仕事をしながら普及センター、JAの協力により青年等就農資金借入に向けた計画作成を進めていた矢先、田村さんが急死され、病院で介護職として勤務していた妻を説得し、夫婦2人で平成28年1月1日に予定より早く就農することになりました。

酪農経験のない妻は田村さんの奥さんから2週間の手ほどきを受け、就農後も助けて頂いたことに感謝しております。さらに、酪農にようやく慣れてきた平成29年2月には自分が病気で1か月半ほど入院し、妻にはさらに大きな負担をかける羽目になりました。

自分も就農当初は飼料給与面で以前、働いていた酪農経営のTMR給与、パーラー搾乳とは異なる分離給与、繋ぎでの搾乳で牛がピリピリすることにとまどいました。

昨年、楽酪事業を活用して自動離脱付きのミルクカーと搬送レール等を設置でき、搾乳時間が短縮され、体への負担も大幅に軽減されました。

現在、夕方6時過ぎには作業を終了し、子供2人と夕食をとるようにしています。

当面は、酪農技術の向上とともに育成牛、乾乳牛用のパドックを設置し、導入したミルクカーを最大限利用できる経産牛規模に早く拡大して生乳の増産を図りたいと思っています。

最後に、牧場従業員等で「独立してやりたい」「自分の牧場を持ちたい」という方は、自分の中で諦めず、JA、普及センターに相談してみてください。良い縁が巡ってくるかも知れませんよ。

## 畜産安心ブランド生産農場だより

佐渡市：金子 知樹

金子牧場は、佐渡市南端部の小木という地域で酪農を営む専業農家です。

私は後継者として平成6年に就農、平成19年に60頭規模の牛舎を新設、そこからは妻と二人三脚で牛飼いをしています。

クリーンミルクの認定は、関係機関からの薦めもありましたが、私たち自身も取得することにより、消費者の皆様がより安心して牛乳を購入し食することができるのなら是非取得したいと考え、平成20年12月に認定を受けることができました。佐渡地域では、平成24年12月の時点で佐渡乳業に出荷する島内全戸の酪農家が認定を受けており、地域一体となって良質な牛乳の生産に取り組んでいます。

当農場では現在、経産牛46頭、育成牛28頭を飼育しています。平成14年から、飼料給与体制を分離給与からTMRに変え、飼料のロスや夏場の乳成分低下を抑えられるようにしました。毎日仕事をするうえで、「安定した餌」「快適な飼養環境」「適切な衛生管理」が乳牛にとって大切であり、それが良質でおいしい牛乳を搾ることにつながると考えています。

これからも、島の酪農家と共に安心、安全な牛乳を生産し、消費者の方々においしい牛乳を飲んでいただけるように頑張っていきたいと思えます。



## ちくさん女子の窓

肉用牛経営 新発田市：津村 智美

2年前の冬、私は狸たちの送り人でした。

病気で毛の抜けた狸たちが牛舎の至る所で亡くなっていたのがきっかけで、明らかに私の使う道具の横で亡くなっていました。すると、飛んでいた鳥が目の前に落ちて死んだり、運転席脇で亡くなっていたりもしました。見知らぬ猫がやってきて、餌を与えても食べず、朝に牛舎に行ったらニャーと鳴いて亡くなりました。（3匹ほど看取りました。）

狸も10匹ほど見送り、牛舎にも大きめのバスタオルを置き、簡素な式場祭壇や白い布も用意し、私なりに手厚く埋めました。

一番ド肝を抜いたのが軽やかに歩く狸が私を見た途端、倒れ、息を引き取ったのは衝撃でした。私は死に神か!?と思ったのですが、妹に送り人だと言われ、そうであって欲しいと思いました。

でもその年だけであって今は動物は亡くありません。今、送り人は閉店休業しています。



## 編集後記



いよいよ春爛漫！

何気に心がワクワクするのは私だけでしょうか？

私事、日が長くなったので趣味のランニングを夕方楽しめるようになって嬉しいです。

ランニングコースの「やすらぎ堤」の桜が満開になるのが今から楽しみです。

(鈴木奈 記)